

研究レポート No.721 岩手県農業研究センター

施設ピーマンで物理的防除と天敵製剤を組み合わせ 農薬の使用回数を削減しよう！

【1 成果概要】

- (1) 施設ピーマンで、施設開口部に光反射資材織り込み防虫ネット（商品名：タキイホホワイト TW30）を展開すると、施設内にアザミウマ類、タバコガ類等の害虫が侵入する数が大幅に抑制されます。
- (2) 上記に加えてピーマン株上に天敵製剤であるスワルスキーカブリダニ剤（商品名：スワルスキー、以下「スワルスキー」）を放飼すると、スワルスキーがアザミウマ類等を捕食するため、化学合成農薬による防除回数を削減しても、被害果の発生を抑えることができます（図3）。



図1 スワルスキーカブリダニ（体長 約 0.3mm）



図2 光反射資材織り込み防虫ネットの展帳状況

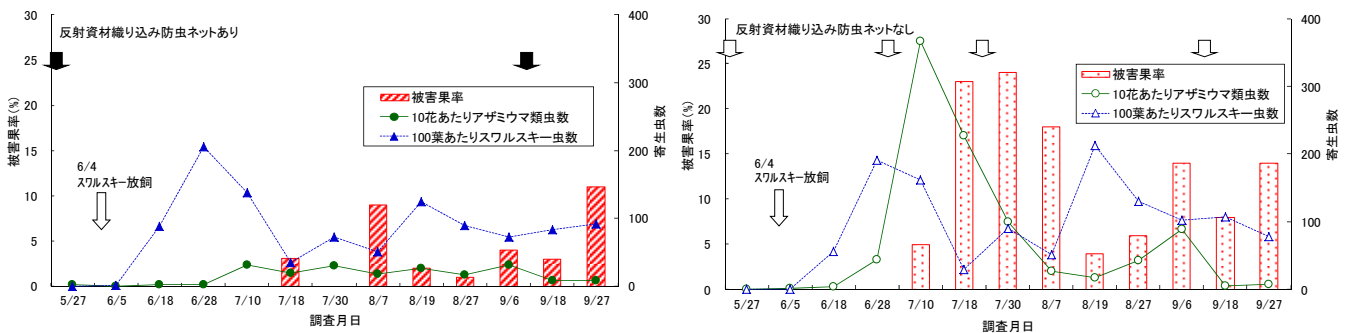


図3 物理的防除と天敵製剤を組み合わせの場合と物理的防除が無い場合の被害果の発生状況 (H25 奥州市現地ほ場)

図3の見方：アザミウマ類は10花あたり、スワルスキーは100葉あたり虫数
 図中の矢印は、化学合成農薬によるアザミウマ類の防除を行った時期
 調査による全体の被害果率：反射資材織り込み防虫ネットあり区 2.8%
 // なし区 9.6%

【2 留意事項】

- (1) 光反射資材織り込み防虫ネットを展開しても、施設周辺のアザミウマ類の発生が多いなどの条件によってはアザミウマ類の侵入が多くなる場合があります。その場合は、速やかにスワルスキーに影響の少ない薬剤で補完防除を実施します。